DANCE
TRIAL

若手アーティスト／制作者がキュレーターとなり、
３組のアーティストが作業灯の下で行うダンスショーケース

DANCE TRIAL

ダンス公演

2024
3.23（土）
3.24（日）
ArtTheater dB KOBE

［神戸市長田区久保町6-1-1
アスタくにづか4番館4階］

この企画では、「横浜ダンスコレクション 2019」コンペティション 1 にて「審査員賞」（グランプリ）・「POROSUS 寄付基金 Camping賞」の二冠を獲得し、東京を拠点にダンス作家として活動している**下村唯**、そして、2023年7月より神戸・新長田に移住し、ダンスボックスのスタッフとして様々な形のダンスを目撃しながら怒涛の日々を過ごす**杉本昇太**によるキュレーション企画を実施します。
「ダンス・トライアル」は作品を発表／踊るだけでなく、終演後に観客やスタッフ、参加アーティスト同士のフィードバックやディスカッションなど交流の機会を設け、お互いの活動内容や問題意識を知ることで、より強いダンスコミュニティの繋がりをつくることを目的としています。

3.23（土） 14:00- ダンスの行方 ～みんなでダンス作品に点数をつけてみる～

「芸術に点数をつけるのはあり？」「コンペって本当に必要なの？」
「作品の感想って、みんなどんな感じで考えているの？」
ダンス作品はその抽象的な性質上、評価も曖昧になることがあります。本公演では、3つのダンス作品を実際に鑑賞し、その作品ごとに観客全員で点数をつけ、それを元にダンス作品を探求し、ダンス作品と、作品の作り手、受け手の適切な関係を考えます。
「ダンスとは何か」「なぜ踊るのか」「大切なことは何か」
ダンス作品をみんなで楽しみ尽くしながら、これからのダンスの行方を共に追っていきましょう。

キュレーション：下村唯

〈プロフィール〉近畿大学文芸学部卒。「すべての人と人が共生するための器としてのダンス」を掲げ活動。劇場など限定空間でしか生まれない、“人と人のつながり”を作品の重要な構成要素とし、観客との対話をそのまま作品に取り込む「ダンスコミュニケーション作品」を展開。また、3つの振付ソロ作品をダンサーひとりが一気に踊る「ひとをどる」など、独自のダンス企画も行なっている。横浜ダンスコレクション2019コンペティション1にて、審査員賞（グランプリ）受賞。

上演作品

下村唯
シャーデンフロイデ日和

髙瑞貴×堀之内真平
ROUTE_db

長野里音
Y路地

作品情報は裏面へ

3.24（日） 14:00- 弱さの可能性

自分のことをずっと「弱い」存在だと思ってきました。他人が怖くて、傷つきやすくて、心のどこかに疎外感や孤独感をもって生きてきました。しかし、新長田に来て DANCE BOX やこの町の人たちは僕を温かく迎えてくれました。初めて自分の「弱さ」を受け入れてくれた感覚がありました。
コンテンポラリーダンスは、既存のダンスを参照しつつ新たなダンスを模索する芸術です。型がなく曖昧で、ある意味「弱い」ところから立ち上がっていくものといえるのではないでしょうか。
弱さのもつ力を受け入れること。それは新たな可能性を生み出すきっかけになります。
今回は３つの作品を紹介します。移民との共生や阪神・淡路大震災を経験し寛容性を持つ新長田という町で「弱さ」について静かに向き合いたいと思います。

キュレーション：杉本昇太

〈プロフィール〉大学在学中にコンテンポラリーダンスに出会う。ダンスの魅力に取りつかれ、公演に足を運ぶ内に、舞踊評論に興味を持つようになる。その後、NPO法人DANCE BOXのインターンとして採用を機に神戸に移住。
新米スタッフとして、舞踊評論家のたまごとして日々修行中。

上演作品

nouses
nous

野田容瑛
1(忘)LDK

堀川裕樹
fragile

作品情報は裏面へ